

第136回 関西大学メディア懇談会（Web開催） 実施概要

1 日時 2021年3月17日（水）15:00～16:30

2 場所 オンライン形式（Zoom ウェビナー）

3 内容

(1) 研究発表（15:05～15:35）

発表者：土田 昭司（社会安全学部教授）

P17～10

テーマ：新型コロナウイルス感染症流行ならびにワクチン接種に対する日本市民の対応

(2) 学内状況の説明（15:35～16:10）

① 2021年度入学試験志願者・合格者状況について

P11～16

② 2021年度も修学支援を継続 ～緊急給付奨学金、ゆめサポほか～

P17

③ “夢・目標”の達成を支援する「ゆめサポ」に採択された学生のその後〔事例紹介〕

P18～20

④ DXの推進について

P21～24

・関大LMSで繋がる「今の学び」と「未来の自分」ー学習環境の再構築とキャリア支援ー

・越える・広がる・交り合うー関西大学グローバルスマートキャンパス構想ー

⑤ キャリア支援の強化について

P25～27

・1・2年次向け「企業連携型キャリアスタートプログラム」

・先輩・後輩の交流促進・情報交換施設「キャリアデザインラボ」

⑥ 新入生への読書啓発「学長&大型書店オススメ図書100選 <2021年度 ver.>」

P28

（その他配付資料）

・2021年度（第47回）飛鳥史学文学講座の開催について

P29

(3) 意見交換・質疑応答（16:10～）

・テーマを問わずその他自由にご意見・ご質問ください。（音声およびQ&Aいずれでも可）

※質疑応答の時間外においても、Q&A機能を使っての質問は随時受け付けます。

→時間の都合上、後日回答になる場合もございますこと、あらかじめご了承ください。

4 大学側出席者

前田裕学長、青田浩幸副学長、佐々木保幸学長補佐、土田昭司教授（社会安全学部）、

岩崎波留奈入試広報グループ長、松並久典総合企画室長、藪田和広学長室長、

増井勝也学長室次長、植田光雄学長課長、依藤康正広報課長、西川武志広報課副主幹 他

以上

【次回のメディア懇談会（第137回）について】

2021年5月中旬の開催を予定しております。開催決定の際には、改めてご案内申し上げます。

新型コロナウイルス感染症流行ならびにワクチン接種に対する日本市民の対応

社会安全学部 教授 土田 昭司

【概要】

新型コロナウイルス感染症流行ならびにワクチン接種についての人々の行動や考えを調べるためにオンライン質問紙調査をこれまでに3回実施した。第1回は2020年8月下旬（東北6県、東京都、大阪府、中国・四国9県にお住まいの各1,500名、計6,000名対象）、第2回は2020年12月中旬（8月調査の対象地域に北海道を加え各500名、計2,500名対象）、第3回は2021年2月下旬（12月調査と同じ対象地域に各300名、計1,500名対象）に実施。各調査回共に、20歳から69歳までの男女を総務省による2019年10月1日現在の人口推定にほぼ則って回答者に割り当てた。

調査結果の主な点は次のとおりであった。

- ワクチン接種をしたいと回答した人は、2021年2月調査で62.6%、男性では66.7%、女性では58.5%であった。2020年12月調査では47.2%、男性では53.8%、女性では40.6%であったので、全体でこの間に15.4ポイント増加した。
- 2021年2月調査で接種に特に積極的なのは60歳以上の人たちで74.6%が接種を希望した。2020年12月調査では60歳以上の人たちにこのような顕著な接種希望は無かった。
- 2020年12月の時点で、仮に「世間の多くの人が接種している」「接種が法律で義務づけられた」との状況になったら6割強の人が接種すると回答した。これは2021年2月調査の接種希望と同じ水準であった。また、2021年2月調査において、仮に「既に接種した人に軽微な副作用(副反応)がでた」状況での接種希望は37.8%であった。2021年2月における接種希望の高まりは今後の状況によってはまた下がる可能性があると考えられる。
- お盆の帰省・旅行と、年末年始の帰省・旅行の実態から、大都市圏特に東京都の人たちは、地方圏特に東北地方の人たちよりも遠距離の移動による感染リスクを軽視していたのではないかと思われる。
- 3回の調査共に、大多数の人は自分あるいは同居家族が感染するのではないかとの不安を覚えていた。
- 不安を強く覚えていた人ほど、手指衛生、飛沫対策、対人接触制限の「自粛」行動をしていた。
- 不安の低い人ほど、感染者や「自粛」しない人への差別意識や独善的意識は低かった。
- 8月調査では、ソーシャルメディア(SNS)で投稿した人のなかで1割強の人が感染者や「自粛」しない人を非難する投稿をしたと回答した。

【プロフィール】

山形県出身。1980年東京大学卒業。同大学院に学び、大阪大学助手、明治大学助教授を経て、1997年より関西大学教授。2014年ハーバード大学客員研究員。専門は安全社会心理学。現在、アジアリスク解析学会会長、日本原子力学会理事、国際放射線防護委員会TG114連携委員。国際リスク解析学会より会長賞とフェロー賞を受賞のほか、日本リスク研究学会賞、日本心理学会賞、日本応用心理学会賞を受賞。これまでに、日本リスク研究学会会長、日本消費者行動研究学会会長、国際リスク解析学会理事なども歴任した。

以上